

- 1.郷土の伝統をたいせつにし、平和で文化の香りたかいまちにします。
- 1.自然を愛し、清潔な環境を保ち、美しいうるおいのあるまちにします。
- 1.きまりを守り、みんなで助けあう明るいまちにします。
- 1.働くことに生きがいと喜びを感じ、健康でしあわせなまちにします。
- 1.教養をふかめ、心ゆたかな市民として、活力にみちたまちにします。

平成元年4月10日号 No.716



「小畔の里 クリーンセンター」(最終処分場)が運転を開始

ごみの最後の捨て場ではありません。将来は公共用地としての活用が期待されます。

家庭から出されるごみは、収集・焼却・埋め立ての順に処理され、多くの費用がかけられています。東京湾の「夢の島」は、生ごみや破碎しないままのごみが形づくった人工の島。今や、このようなごみ処理時代は終わるとしています。悪意の発生は、快適な都市生活を遠ざけ、原型のままのごみを収容する土地を提供するほど都市空間には余裕がないのです。処理方法の転換と費用の増大が、都市に求められているのです。このような状況のなかで、最後のごみを本格的に処理できる埋立地と処理施設が市内に確保できることは、まさにごみ処理新時代の到来とも言えるのではないでしょうか。

今回は、住友あい自治会で衛生委員を務める雨宮 春江さん(上戸新町)が、四月から運転を始めた「小畔の里 クリーンセンター」を訪れ、施設ごみ処理の現状をレポートします。

水処理の流れ

汚水調整設備
水の中の泥や砂を除去

生物処理設備
バクテリアによる処理

凝集沈殿処理設備
沈殿した浮遊物を処理

高度処理設備
急速ろ過器で浮遊物を除去

消毒設備
滅菌処理

汚泥処理設備
汚泥を脱水し搬出



埋立容量は、第一期分で21万t。10ヶ月で約3万台分がこのスペースに入る。

雨宮 以前に不燃ごみにかなりの燃えるごみが入っていると聞きましたが、大雨とさらくごみ処理経費を節約することができました。

原田 不燃ごみとして集められたうちの約四十%が可燃ごみなんですね。これらを

雨宮 はい、本市における一人あたりの集団回収量は県内トップなんです。自治会など、地域ぐるみの活動の成果によって昭和六十二年度は一年間に一億二千万円以上のごみ処理経費が節約できました。

原田 集団回収とか。

ごみ収容後は憩いの場

びん、カンを別にして出す



埋立地の底まで降りて説明を受ける。「ごみが減れば、ここも永く使える……。こんな思いも湧いてくる。」

雨宮 ごみの収容後は、ここだけで市内の全てのごみを処理しているのですか。

原田 いいえ、ここで処理するのは全体の約七〇%で、残りの約三〇%は県内、県外それぞれ一か所ずつ施設と契約し処分をお願いしています。最終処分地の確保にはどこの自治体でも苦慮しているのが現状なんですね。最終処分場は県内を見ると、浦和市が昨年オープン。次いで本市、狭山市、所沢市でも市内に施設の建設を進めていますが、やはり用地の取得はたいへんだったようですね。

雨宮 なかなか用地が確保できないとなるとできるだけ永く使えるようにしなければならないですね。

原田 ええ、それに埋め立てを含め、ごみの処理にはたくさん経費もかかります。使えるものはなるべくサイクル運動などを通して有効に活用していただきたいと思います。

雨宮 集団回収とか。

原田 はい、本市における一人あたりの集団回収量は県内トップなんです。自治会など、地域ぐるみの活動の成果によつて昭和六十二年度は一年間に一億二千万円以上のごみ処理経費が節約できました。

雨宮 以前に不燃ごみにかなりの燃えるごみが入っていると聞きましたが、大雨とさらくごみ処理経費を節約することができました。

原田 不燃ごみとして集められたうちの約四十%が可燃ごみなんですね。これらを

雨宮 はい、本市における一人あたりの集団回収量は県内トップなんです。自治会など、地域ぐるみの活動の成果によつて昭和六十二年度は一年間に一億二千万円以上のごみ処理経費が節約できました。

原田 集団回収とか。

雨宮 はい、本市における一人あたりの集団回収量は県内トップなんです。自治会など、地域ぐるみの活動の成果によつて昭和六十二年度は一年間に一億二千万円以上のごみ処理経費が節約できました。

雨宮 広報の三月十日号には「ごみの持ち出し方」を参考にすればいいですね。

原田 現在、不燃ごみは西清掃センターで処理していますが、一時的にごみを貯めておく場所がないのでなるべく量を減らさなければなりません。そのためにも分別収集の実現が必要なのです。

雨宮 ここは全部埋められてしまった後どのようにになるのでしょうか。

原田 将来は、公共用地として市民が利用できるようになりますが、これはごみ処理施設を永く使うために大切なことです。

雨宮 ごみ処理新時代の幕明けにふさわしいクリーン施設の誕生! 『朗報』とも言える話題ですが、この施設の用地購入費、建設費は、莫大なものでしたし、今後は導入するとなると処理施設を新設しなければならず、かなりの費用が必要です。

原田 現状のごみ処理施設を永く使うためには、やはり市民の方の協力が不可欠です。

花の美しさ。街中に広がって欲しい。

ごみ処理はみんなの課題

雨宮 ここは広々としていて、とても気持ちがいいところですね。

原田 大谷川と小畔川にはさまれたところで二つの川は少し下ると入間川と合流します。秋には「まんじゅしやげ」が群生していて、赤いじゅうたんを敷きつめたように美しく、埼玉自然百選で準選にもあげられたところです。

雨宮 最終処分場ですが「小畔の里」というのはステキな名前ですね。

原田 地元の人たちが考えてくれました。単なるごみ捨て場ではなく、環境の保全を十分配慮した施設ということで「小畔の里 クリーンセンター」としました。雨宮 このセンターの建設はいつ頃から始められたのですか。

雨宮 土手の上から底までは六㍍の深さの堤を作っています。

原田 地面を四回掘り下げ、周囲には二手のフェルトを敷き、その上に合成ゴム

雨宮 「ごみの持ち出し方」を参考にすればいいですね。

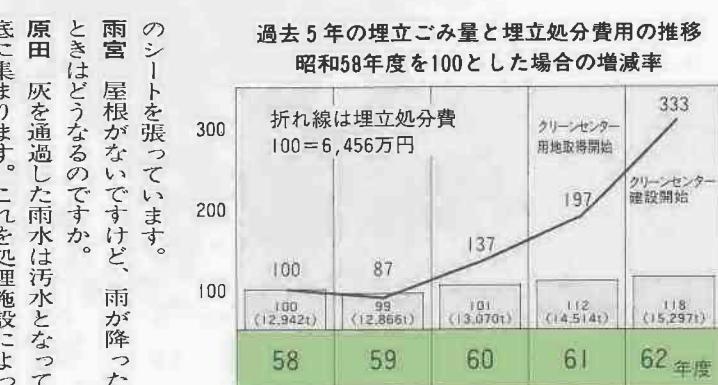
原田 現在、不燃ごみは西清掃センターで処理していますが、一時的にごみを貯めておく場所がないのでなるべく量を減らさなければなりません。そのためにも分別収集の実現が必要なのです。

雨宮 ここは全部埋められてしまつた後どうになりますか。

原田 将来は、公共用地として市民が利用できるようになりますが、これはごみ処理施設を永く使うために大切なことです。

雨宮 ごみ処理新時代の幕明けにふさわしいクリーン施設の誕生! 『朗報』とも言える話題ですが、この施設の用地購入費、建設費は、莫大なものでしたし、今後は導入するとなると処理施設を新設しなければならず、かなりの費用が必要です。

原田 現状のごみ処理施設を永く使うためには、やはり市民の方の協力が不可欠です。



みんなの作文

この小学校生活六年間で、長い
ようで短かた日々。苦しかった
ことや悲しかったこと、うれしか
つたこともあります。その思い
出は、私の近くにいた友達やみんながい
たからです。

そして、友達の大
切さも知りました。

何か失敗した時、困
った時、なやんだ時
など相談にのってくれ
た友達。けれど、

いつも仲良しとは限
りません。時には文
句を言ったり、時に
は仲間はずれになつ
たりしました。

「私から、あやまろ
うかなあ。」

「私が、いけなかつたのかなあ。
と思います。でも、不思議なこと
に、次の日は仲直りしていました。
自然にそうなつてしまふのです。

いつも、うれしいことばかりで
自然になつてしまふのです。
だから生きしていく中で、より多くの
大切な友達をつくつていきたいで
す。おたがいの心が分かれ合える
はなかつたけれど、

「友達がいてよかつたな……。」

また、友達以外にも、いろいろ
と思います。



大切なものの

古 鈴 美 久 小 学 六 年 古 鈴

中学生になると、小
学校以上につらいこ
とがあると思います。
でも、小学校生活で
の苦しかった持久走
大会、大声で歌い、
きん張した音楽会、
どろんこ祭りのフィ
ールドアスレチック、

一生けん命山に登っ
た林間学校、六年最
後の行事の修学旅行
などを思い出しながら、これから作つて

いく思い出を大切に
していきたいです。
これからは、みんな別々になつ
てしまふけれど、いつまでも変わ
らず友達でいたい。そして、これ
はなかつたけれど、

友達を……。

（注）この原稿は、三月中に書いた
いたいたいものです。

な花咲き実をもてるあり
下小坂 大川ふじ
三人の息子いくさで失ひし昭和の
御代も終りかと言ふ母 宮元町 鈴木喜久枝
春の陽をわがものと思ふ野に出で
て幼な児と遊ぶ満ち足りし時 宮元町 清水和子
な花咲き実をもてるあり
下小坂 大川ふじ
梅の香にただよう庭に干す夜具
に春のぬくもり浸み入ることし
的場 鈴木稻子
新緑の京都の旅の計画を夫に告
げんと帰りを待てり
霞ヶ関北四 高橋祐希子
バイクにて訪問販売の十五年苦
樂よぎりて走馬燈の如し
天沼新田 正木経子

住む土地にも相性のあることを知
り終のすみ家としたし川越
川鶴三 大島秀子
みずみずしく固く巻きたる白菜は
何をつむかこの手に重い
的場 小川茂子
芽吹かんと梢明るむ雑木山通条
花は既に花房を垂る

下広谷 大久保ふく
変声期むかえた息子に戸惑いぬ比
の子いつしか思春期なりき

霞ヶ関東三 平野扶美子

短歌 歌会 水槽



わが街川越 番組案内

一部変更になることもあります。

38ch テレビ埼玉 毎週火曜日 PM 5:30~ 5:40
PM 10:00~ 10:10

4/18(火)川越春物語



季節ごとに、その表情を変
える自然是、それ自体が一つ
の物語。四季折々の川越の自
然と人々とのかかわりを描く
シリーズの今回は春の川越を
紹介します。

春は、もえ出る季節。水もぬるみ、花々が咲き、林には若葉
の季節がめぐって来ました。番組では、歩いて見つけた春の表
情のいくつかを、色彩豊かにお届けします。

4/25(火) 放送500回記念
特別対談



市広報番組の誕生は、遡ること10年。昭和54年10月。以来、
まちの話題を皆さんのお茶の間へお届けして、今回が通算500
回目を迎えます。いつもと趣向を変えて、特別対談番組企画。
昨年12月、市民栄誉章に選ばれた田部井淳子さん、牛窪多喜男
さんをゲストに招き、お二人に共通するスポーツについて存分
に語り合っていただきます。この対談内容は、次号の紙面に掲
載。電波・活字の両面でお楽しみください。

△ 岸町二 安原松枝
時雨降る円良田湖畔わが行けば
雲けじめなく峰々けむる
下広谷 大久保ふく
霞ヶ関東三 平野扶美子

寒戻る厨に朝を時かけて雛に馳
走の菜刻みをり
霞ヶ関東二 鈴村 衣
"在宅ケア" "チヨツト教え
て" "数かずウオッチング"
"海を越えて" の五本。ご期
待ください。